

夕陽会報



◇巻頭言◇

母校創立百十周年記念式典を終えて

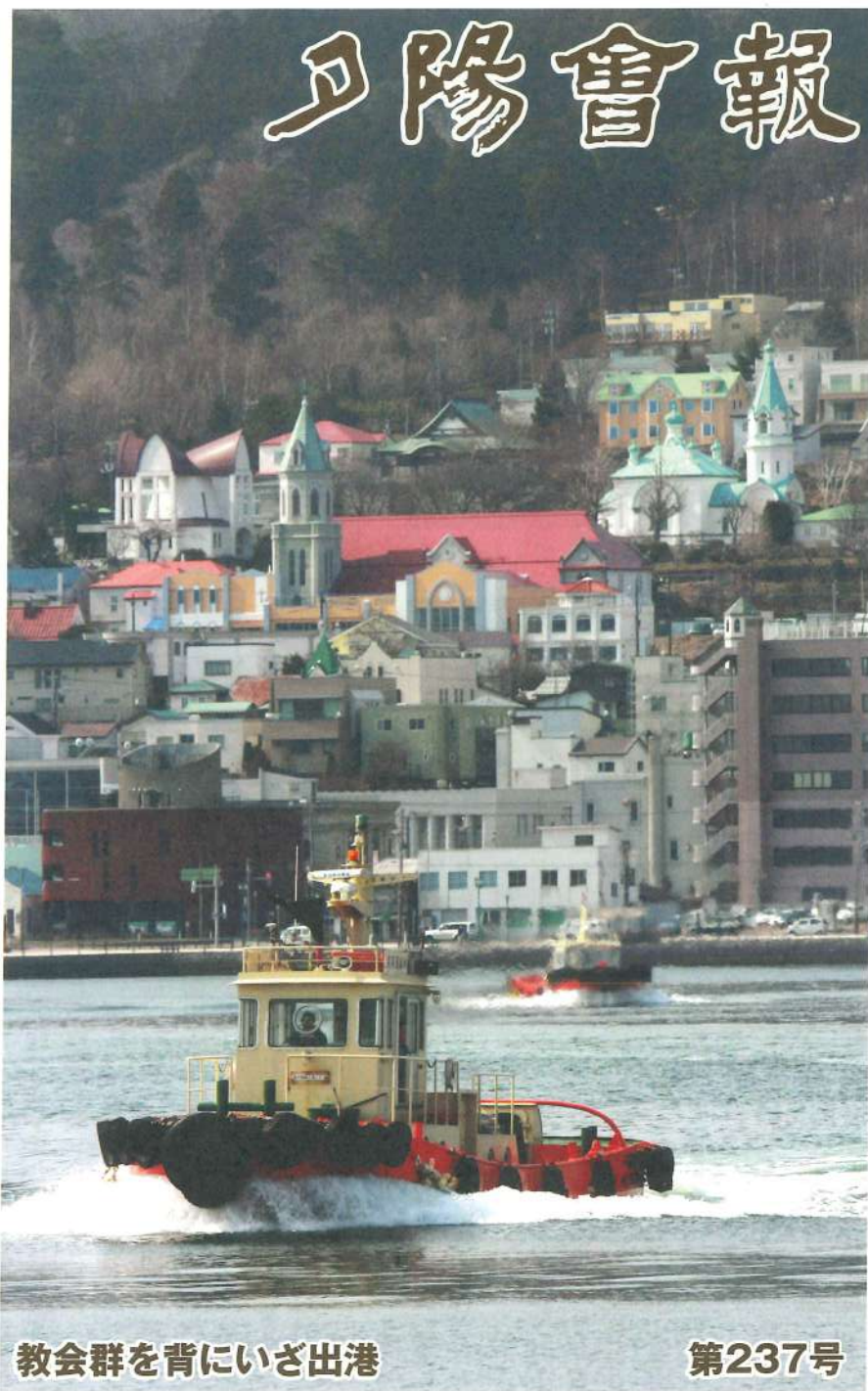
会長 風間 和夫

(昭和57年卒)

令和四年度夕陽会本部総会において会長を仰せつかって早二年が経ちました。この間、顧問、参与、本部役員、支部役員をはじめ、多くの会員の皆様のご支援のもと、何とか任務を遂げることができました。そしてこの度、六月二十九日に開催された

令和六年度総会において再び会長を仰せつかることとなりました。再度重責を担うこととなり改めて身の引き締まる思いですが、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

さて母校、北海道教育大学函館校の前身は一八七六(明治九)年に開



教会群を背にいざ出港

第237号

設された官立函館小学教科伝習所にあります。本学は一九一四(大正三)年、北海道函館師範学校の開校に始まり、幾度かの校名変更を経て、今年度創立百十周年を迎えました。本学では創立百十周年記念事業に向けて実行委員会を立ち上げ、夕陽会からは私が副会長を、幹事長が委員を仰せつかり、微力ながらお手伝いをさせていただきました。また、この度の記念事業に際し、過去を参考にしながら夕陽会から寄付金を進呈いたしました。(この件に関しましては既に夕陽会本部役員会にて了承され、総会にて報告、承認されております。)

先日、九月二十八日に北海道教育大学函館校創立百十周年記念式典及び祝賀会が開催されました。木村育恵実行委員会会長代行より式辞があり、函館市長、渡島教育局長よりご祝辞を賜りました。式辞では国際地域学科として再編されたこの十年間を振り返り、地域を活性化する人材育成を目指した教育について述べておられました。また式典の中で個人・団体に感謝状贈呈がありました。私が夕陽会にも実行委員会から感謝状が授与されました。「貴団体は北海道教育大学函館校の充実発展に永年に亘り寄与されました」とのことでしたが、とりわけコロナ禍における学生支援が評価されたのではないかと思っております。会員相互の絆を確かなものにするのが夕陽会ですが、一方で本学への協力、学生支援も大切な役割のひとつと考えます。今後も本学を陰ながら支える夕陽会でありたいと思います。式典・祝賀会には教育関係者、本学OB、本学職員その他、夕陽会からもたくさんの方の出席がありました。同窓として本学の節目をお祝いできたことを嬉しく思います。

本学関連で申しますと前述の一週間前、九月二十一日に北海道教育大学附属函館小学校創立百十周年記念式典が開催されました。本学の附属学校として教育研究のみならず函館市の初等教育を永年リードしてきた歴史と伝統と成果に改めて敬意を表する次第です。また附属函館中学校は美原地区に校舎を移して五十五年が経ちますが、今年から大規模の改修工事がスタートします。

終わりになりましたが、六月に開催されました夕陽会大懇親会には多くの会員の皆様に参加していただきありがとうございました。おかげさまで盛会のうちに終了することができました。今後とも会員の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

顧問・参与会

令和六年六月二十二日（土）、附属函館小学校において、顧問・参与会が開催されました。当日は、橋田顧問や藤川顧問をはじめ、大先輩の参与の皆さんにも出席いただきました。

風間会長の挨拶の後、議長に伊藤副会長が選出され、総会議案について意見をいただきました。昨年度話題となった、顧問・参与会のあり方については、「意見交流の場を設けたことは評価できる」というご意見をいただきました。また、その交流会では「函館市民の方々に夕陽記念館を開放する」「持続可能な会の運営を今一度検討していく必要があるのではないか」という助言をいただきました。

全国支部長会議

令和六年六月二十九日（土）、函館国際ホテルにおいて、全国支部長会議が開催されました。会議には、二十二名の支部長の皆さんに参加いただきました。

栗田副会長と島津副会長が議長に選出され、総会の議案及び運営について話し合われました。その後、各部からの連絡・依頼事項についての説明が行われました。会議の最後に、各支部から活動状況についての報告がありました。会員数の減少傾向が続いていること、三支部交流会を再開できたこと、研修として、学校経営セミナーを実施したところ、会員以外の参加者もあったことなど、共通の課題や成果が報告されました。各支部とも会員の減少課題がある中、公務員の会員や若手会員に声を掛けるなど努力を重ねている支部が多いことがわかりました。また、依然として支部活動が困難な状況にある場合は、オンライン活用により交流会・研修会を実施するなど、それぞれの支部の工夫についても交流することができました。その中で、地域のリーダーとなる人材育成のために、各支部がそれぞれの特長を生かして取り組みを重ねていくことを報告の中から再確認することができました。

本部総会

全国支部長会議終了後、函館国際ホテルを会場に令和六年度本部総会が開催されました。審議に先立ち、夕陽讃歌を合唱し、風間会長から「多くの参会者による総会を開催することができた。役員改選に伴い、人とのつながりを大切にすること、今後の夕陽会について提案もさせていただくので、慎重な審議をお願いしたい。さらに、昨年度に引き続き大懇親会を実施できることを喜ばしく思う。」との挨拶がありました。

次に、議長として三野宮誠一支部長（宗谷）、間瀬龍生支部長（渡島）、岡田貴幸支部長（小樽）本部役員選考委員及び議事録署名人、記録者をそれぞれ選出して議事に入りました。報告事項では、新田幹事長が令和五年度の会務・事業報告を行いました。その後、澤田財政部長による令和五年度会計決算報告、門脇監査による令和五年度会計監査報告が行われました。

続いて、風間会長から本年三月の卒業・修了者の就職状況は、昨年度同様約六割が民間企業、公務員と教員がそれぞれ約二割であり、職種も勤務地も多様化しているとの説明がありました。

また、昨年度に引き続き、学生の夕陽会に対する意識啓発を図るため、教員採用にかかわる支援をはじめ、

学生への生活支援としてQ.U.Oカードの配布、研究・文化・スポーツ活動で顕著な成果を上げた学生の表彰等に取り組んでいることが報告されました。

協議事項では、新田幹事長から令和六年度運営方針・推進事項、事業計画が提案。その後、澤田財政部長代行が令和六年度会計予算案について説明しました。次に、役員選考委員長の笹木中央支部長（檜山）から、選考結果についての提案がありました。なお、報告事項と協議事項については、いずれも満場の拍手をもって承認されました。

推進事項（□は重点事項）

①組織強化と運営の効率化

□支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携

②人材の育成

□多種多様な立場の会員を結び、会員相互が交流・連携できる場や機会の工夫

③財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

□各支部と連携した諸会費の納入への取組

④研究・研修、文化事業の奨励

□会員と母校学生による協働活動の奨励

⑤母校への支援と地域への貢献

□学生に対する同窓会意識の啓発と勧誘活動の工夫

大懇親会

於 函館国際ホテル



全国支部長会議

令和6年度 夕陽会総会

令和6年6月29日(土)

夕陽会総会・大懇親会



総会

□学生の生活、スポーツ・文化・芸術活動への支援
 ⑥夕陽記念館（北方教育資料館）の整備・活用
 □夕陽記念館の教育活用、学生・地域住民への開放

令和6年度 本部役員（総会選出）

◎は新任

○会長 風間 和夫（昭和57年卒）
 ○副会長 伊藤 皓嗣（昭和44年卒）
 ○副会長 西谷 文子（昭和44年卒）
 ○副会長 島津 彰（昭和48年卒）
 ○副会長 竹鼻 洋文（昭和49年卒）
 ○副会長 栗田 俊一（昭和53年卒）
 ○副会長 田村 宏美（昭和58年卒）
 ○副会長 寺本 公彦（昭和62年卒）
 ○副会長 田上 直広（昭和62年卒）
 ○副会長 西田 浩人（昭和62年卒）

大懇親会

◎副会長 佐藤 等（昭和63年卒）
 ○副会長 藤井 浩之（昭和63年卒）
 ○監査 近藤 健（昭和41年卒）
 ○監査 林 敏雄（昭和55年卒）
 ◎監査 竹嶋 充（昭和56年卒）
 ○幹事長 新田 英樹（平成4年卒）
 ○副幹事長 宮下 知子（平成4年卒）
 ○副幹事長 黒田 諭（平成5年卒）

昨年度は制限を設けながらの大懇親会でしたが本年度は制限をせずに盛大な大懇親会を開催することができました。開会に先立ち副会長の先導によりご来賓の方々が入場し、会場には大きな拍手が鳴り響きました。藤谷貴代前副幹事長の進行のもと田上直広副会長が開会を宣言し、令和6年度の大懇親会の宴が始まりました。

「夕陽讃歌」の斉唱では、参加者全員の母校に対する思いが込められた「夕陽讃歌」となりました。

会長挨拶で、風間和夫会長は、昨年のような制限もなく、大懇親会を開催できたことに對する会員皆様のご協力へのお謝辞がありました。さらに「夕陽会」は北海道の教育界を中心としながらも全国各地各界に優れた人材を輩出してきた。現在は教職に就く後輩たちが少なくなっているが同窓を大切にする精神を土台として、それぞれが自らの使命や生

き方を見つめつつ歩んでいきたいと思うので今後の夕陽会に対する変わらぬ協力をいただきたい」という呼びかけがありました。

ご来賓挨拶で、函館副市長佐藤聖智子氏からは、教育の今日的課題の解決に向け、日頃から努力している夕陽会会員への感謝と今後ますますの発展を願う激励の言葉をいただきました。

次に、北海道教育庁渡島教育局長山下幹雄氏による祝杯のご発声で祝宴が幕を開けました。

大懇親会では、より活発な交流ができるよう、これまで同様に座席は卒業年次ごととなりました。会場内は、互いに若き日の記憶をよみがえらせ、旧交を温め合いながら、青春時代にもどったように語り合う姿が随所に見られました。コロナ禍前のような夕陽会大懇親会ならではの熱気に満ちあふれる雰囲気包まれるとともに笑顔が咲きました。

閉会が近づく中、トリを飾る寮歌の大合唱が始まります。恒例の小林周次先生（昭和三十三年卒）とコロナ禍前同様にご来賓の方々も「夕陽」の法被姿で登壇すると、会場の雰囲気は更に盛り上がりしました。引き続き、小林周次先生の音頭で母校に対する思いを込めた歌声が会場全体に響き渡りました。

余韻覚めやらぬ中、乾杯の時間となりました。本年度は乾杯の前に新

たな演出として函館市教育委員会藤井壽夫氏とご学友の譽田洋三氏が登壇し「今日の日はさようなら」を全員で斉唱する場が設けられました。とても良い雰囲気となったところで、あらためて函館市教育委員会藤井壽夫氏が乾杯の音頭を取り、宴は開きになりました。

最後に西田浩人副会長が閉会を宣言し、副会長の先導でご来賓の方々が退場され、本年度の夕陽会大懇親会も大盛会のうちに終了しました。

令和7年度も六月二十八日(土)

に、函館国際ホテルにおいて夕陽会本部総会ならびに大懇親会を開催する予定です。多くの会員諸氏がこぞって集い、同窓の輪を広げられるようご協力をお願いします。

夕陽会総会・大懇親会



大懇親会

令和六年度

夕陽会運営方針並びに推進事項

《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の進化拡充に努める。

《推進事項》

1 組織強化と運営の効率化

会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と会運営の効率化を図る。

(1) 多くの同窓生が集うための広報活動や組織拡充の取組

(2) 支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携(重点事項)

(3) 会社員・公務員会員の組織化の推進

(4) 若手会員の運営への積極的な参画

2 人材の育成

(1) 夕陽会報237、238号の発行

(2) 人材の発掘と会員の資質・地位の向上を図る。

(3) 多種多様な立場の会員を結び、会員相互が交流・連携できる場や機会の工夫(重点事項)

(4) 地域の教育・文化の振興をリードする会員の発掘と育成

(5) 民間企業、地方公共団体に努める若手会員の中核となる人材の育成(重点事項)

3 財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

(1) 「つなぎ」、「集う」視点から、諸事業の再構築と財政の効率的な運用に努める。

(2) 財政基盤の中・長期的な整備策の実施

(3) 本部役員の職務の明確化と専

4

門部、諸業務、諸事業の見直し
(3) 各支部と連携した諸会費の納入への取組(重点事項)

(4) 地域や職種における会員の多様化に対応できる納入方法の検討

研究・研修、文化事業の奨励
会員による個人及び共同の研究・研修等を奨励し、明日の夕陽を担う会員等の研究・研修意欲の高揚を図る。

(1) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介

(2) 各支部の研究活動等の支援
「若手枠」の活用による夕陽会の明日を担う若手の育成

(3) 会員と母校学生による協働活動の奨励(重点事項)

(4) 母校への支援と地域への貢献
母校の継続と発展を願い、現役学生の支援を行う。

(5) 母校の就職対策関係事業及び教授対策関係事業への支援

(6) 学生に対する同窓会意識の啓発と勧誘活動の工夫(重点事項)

(7) 大学の地域連携・社会貢献への協力・支援

(8) 学生の生活、スポーツ・文化・芸術活動への支援(重点事項)

(9) 夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用

(10) 記念資料等の収集と適切な保存、展示、活用を努める。

(11) 会員の作品、記念資料などの収集と会報やWebページ等での周知

(12) 夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備

(13) 夕陽記念館の教育活用、学生・地域住民への開放(重点事項)

夕陽会本部 事務局業務分担

庶務部

宮下 知子(附属特支副校長)

1 諸会議(含懇親会)の諸準備及び進行、記録

2 文書の收受、発送及び保管

3 会員の慶弔事務

4 その他、庶務に関する事

財政部

澤田 仁志(知内小頭)

1 運営会費の徴収、支出事務

2 基本金及び特別会計の徴収、支出事務

3 予算書、決算書の作成

4 前納会員に関する事務

5 その他、財政に関する事

組織部

黒田 諭(附属中副校長)

1 支部組織の編成と組織強化対策

2 会員の動向調査(支部別、校種別会員名簿)

3 支部役員名簿の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集

4 その他、組織全体に関する事

情宣部

近江 辰仁(桔梗小長)

1 「夕陽会報」の発行

2 夕陽会ホームページの作成とその管理

3 その他、情宣に関する事

文化部

柿崎 雄二(高丘小頭)

1 会員の文化活動に対する支援

2 夕陽掲示コーナーの設置、管理

3 会員の作品及び記念資料の収集

4 文化事業の検討、企画

5 その他、文化に関する事

研修部

高橋 吉隆(あさひ小長)

1 会員の個人及び共同研究への助成

2 支部ブロックにおける研修活動に対する支援

3 講演会等の企画、開催

4 その他、研修に関する事

学生支援部

寺崎 歩(北日吉小長)

1 学生支援事業の企画、実施

2 学生参画による夕陽記念館の整備、活用

3 その他、学生生活、各種活動の支援に関する事

令和六年度 夕陽会本部役員名簿

[illegible]

令和六年度支部役員名簿

[illegible]

幹長 (根)	会幹副長 (釧路)	会幹副副副副長 (帯広十勝)	会幹副長 (日高)	会幹副副副副長 (胆振夕陽会)	会会幹副副副長 (空知)	幹副副長 (函館市)	会幹副副副長 (渡島)	会幹
今丸山浩文平2別海町上春別中長	阿部千可子平21釧路市景雲中論	永田征佳平18鹿追町花園小頭	川野靖幸平5新高田町富川小長	花田啓高平4伊達市喜門岱小長	大島中晴吾平3秩父別町秩父別小長	山崎秀樹昭63函館市北日吉小長	金澤真力生昭62落部中長	荒谷真一平10江差北中長

[illegible]

令和5年度 夕陽会本部会計決算報告(1)

(令5. 5. 2~6. 5. 1)

1 通常会費会計

(単位: 円)

収 入 総 額	支 出 総 額	差 引 残 額
6, 843, 233	5, 073, 481	1, 769, 752

(収 入 内 訳)

項 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
会 費	3, 330, 000	3, 197, 500	△ 132, 500	・ 1, 287人 (内道外2, 000円@40名含) で計算
雑 収 入	17	12	△ 5	・ 利 子 (17円)
繰 越 金	3, 645, 721	3, 645, 721		
計	6, 975, 738	6, 843, 233	△ 132, 505	

(支 出 内 訳)

項 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
事 業 費	4, 500, 000	2, 253, 410	△2, 246, 590	各種事業 会員名簿積立(60万) 研究及び研修補助 学生表彰 その他
補 助 費	650, 000	442, 980	△ 207, 020	支部・支会総会 同期会・研究室総会等 御祝 指導主事等会 ブロック会議 その他
会 合 費	260, 000	256, 509	△ 3, 491	全国支部長会議 役員会 その他
旅 費	1, 000, 000	1, 604, 245	604, 245	全国支部長会議 役員会 支部及び支会総会 その他
事 務 費	500, 000	492, 477	△ 7, 523	電話代 郵送費 印刷費 事務用紙 H P 運用費用 その他
慶 弔 費	25, 000	16, 000	△ 9, 000	祝電 その他 ※前納会員の慶弔費は益金から支出
雑 費	20, 000	7, 200	△ 12, 800	茶菓 その他
予 備 費	20, 738	660	△ 20, 078	予備
計	6, 975, 738	5, 073, 481	△1, 902, 257	

上記の各項(通常会費会計)の監査を遂げ、その正確なことを証明する。

令和6年5月10日

会計監査

門 脇 正 和
林 敏 雄
近 藤 健

令和5年度 夕陽会本部会計決算報告 (2)

2 基本金会計

(単位：円)

収 入 総 額	支 出 総 額	差 引 残 額
39,772,987	2,138,342	37,634,645

〈決 算 の 内 訳〉

項 目	元 金 の 部		益 金 の 部	
収 入	24,793,486		14,979,501	
内 訳	公 募 公 債	22,000,000	繰 越 金	931,910
	繰 越 金	1,036,735	みずほ信託銀行満期	13,000,552
	借 入 金	0	元 金 よ り	1,000,000
	前 納 会 費 (12名分)	360,000	本 年 度 利 子	47,039
	受 取 利 子	8	(貸付信託)	(46,920)
	公募公債差引額	1,396,743	(銀行利子)	(119)
支 出	1,309,425		828,917	
内 訳	振 込 手 数 料	9,425	前 納 会 員 記 念 品 送 料 他	4,450
	益 金 へ	1,000,000	前 納 会 員 慶 弔 費 他	281,951
	R6通常会費会計へ(会費縮減の緩和措置)	300,000	会 報 印 刷 代	334,400
			会 報 送 料	208,116
			会 員 名 簿 印 刷 代・送 料	0
差 引 残 額	23,484,061		14,150,584	

〈公募公債状況〉

	金 額	名 称	償還・満期日
み ず ほ 信 託 銀 行	13,000,000	大口定期預金	2022/6/5 (R4) →2022/6/6 益金へ
野 村 證 券	5,000,000	札幌市平成29年度第3回公募公債	2027/6/18 (R9)
	4,000,000	北海道平成29年度第5回公募公債	2027/6/30 (R9)
	8,000,000	北海道平成29年度第15回公募公債	2028/2/28 (R10)
三 菱 U F J 証 券	5,000,000	第11回三菱ファイナンシャルグループ	2026/7/29 (R8)
合 計	35,000,000		

※償還・満期日は証書記載の元号による。

上記の各項（基本金会計）の監査を遂げ、その正確なことを証明する。

令和6年5月10日

会計監査

門脇 正和

林 敏雄

近藤 健

令和5年度 夕陽会本部会計決算報告(3)

3 学生支援金会計

収 入 総 額	支 出 総 額	差 引 残 額
2,069,088	1,287,203	781,885

(1) 収 入 内 訳

項 目	金 額	備 考
寄 附 金	880,000	2,000×389人
雑 収 入	6	安島様(10万円) 渡辺様(3万円)
繰 越 金	1,189,082	利子6
計	2,069,088	

(2) 支 出 内 訳

項 目	金 額	備 考
支 援 物 資 関 連	946,000	QUOカード(実習生173人・学生300人分)
助 成 費	207,200	吹奏楽団 地域づくり支援実習
学 生 支 援 部 助 成 費	81,450	準硬式野球部 モダンダンスクラブ
払 込 料	52,553	その他
計	1,287,203	

上記の各項(学生支援金会計)の監査を遂げ、その正確なことを証明する。

令和6年5月10日

会計監査

門脇正和

林 敏雄

近藤 健

令和6年度 夕陽会本部会計予算

1 通常会費会計

一人年間 2,500円

(単位：円)

項 目	令和5年度 予 算 額	令和6年度 予 算 額	比 較	備 考
-----	----------------	----------------	-----	-----

(1) 収 入 内 訳

会 費	3,330,000	3,005,000	△ 325,000	会員数1,210名（内道外40名）で計算
元金からの 補 助 金	0	300,000	300,000	会員縮減の緩和措置
雑 収 入	17	10	△ 7	利子
繰 越 金	3,645,721	1,769,752	△1,875,969	
計	6,975,738	5,074,762	△1,900,976	

(2) 支 出 内 訳

事 業 費	4,500,000	2,250,000	△2,250,000	各種事業 会報発行・発送 研修補助 名簿積立(60万) 母校110周年記念寄附(20万) その他
補 助 費	650,000	430,000	△ 220,000	支部・支会総会 同期会・研究室総会等 御祝儀 指導主事等会 ブロック会議 その他
会 合 費	260,000	260,000	0	全国支部長会議 役員会 その他
旅 費	1,000,000	1,600,000	600,000	全国支部長会議 役員会 支部及び支会総会 その他
事 務 費	500,000	500,000	0	電話代 郵送費 印刷費 事務用紙 HP運用費用 その他
慶 弔 費	25,000	20,000	△ 5,000	祝電 その他 ※前納会員の慶弔費は益金から支出
雑 費	20,000	10,000	△ 10,000	茶菓 その他
予 備 費	20,738	4,762	△ 15,976	予備
計	6,975,738	5,074,762	△1,900,976	

令和6年度 夕陽会事業計画

月	事業等	諸会議	事務局	ブロック・支部関係
R6 4月	・キャンパス長との懇談			
5月		・監査(10) ・第3回本部役員会(23)	・総会等の準備(庶) ・名簿作成準備(組)	
6月		・顧問・参与会(22) ・全国支部長会議、総会、 大懇親会(29)		
7月	・夕陽教育フォーラム ・教採二次対策講座			
8月			・「学生応援基金」依頼文 書等の発送	
9月	※五校同窓会長等会議 (岩見沢開催) 母校110周年記念式典		・会員名簿発行に向けての 取組(組)	
10月	・キャンパス長との懇談		・会費等納入促進(組・財)	・道央ブロック会議
11月	・指導主事等会学習会	・第1回本部役員会	・会報第237号発行(情) ・支部役員名簿発行(組)	・道東ブロック会議 ・道北ブロック会議
12月	・学長と5校同窓会長との 懇談		・会費等納入促進(組・財)	
R6 1月		・会社員、公務員部会懇親会		
2月	・道教育長と5校同窓会長 との懇談	・第2回本部役員会	・会費等納入促進(組・財)	
3月	・函館校学位授与式 ・学生表彰		・入会手続き(庶・組) ・会報第238号発行(情)	
4月	・入学式			
5月		・監査 ・第3回本部役員会	・総会等の準備(庶)	
6月		・顧問・参与会 ・全国支部長会議、総会、 懇親会(28)	・支部役員名簿発行(組) ・管理職・行政職等名簿発 行(組)	
日常 業務	・大学・学生支援	・事務局会議(毎月) ・事務局各部会	・慶弔関係(庶) ・前納会員手続き(財) ・Webページの更新(情) ・研究助成(研) ・夕陽掲示コーナー(文)	・支部総会・懇親会 ・支部研修会等

令和7年度 本部総会・大懇親会・全国支部長会議
 令和7年6月28日(土) 函館国際ホテル ※詳細は次号でお知らせします

就任ご挨拶



就任にあたって

副会長 田上直広
(昭和62年卒 函館市立湯川中学校長)

この度、函館市中学校長会を代表し、夕陽会副会長という大役を仰せつかり、その任の重さに身の引き締まる思いでおります。風間会長をはじめ、役員の皆様のご指導を仰ぎながら、夕陽会の充実・発展のため精一杯務めさせていただきます。

私は、昭和六十二年母校を卒業し、清水町立旭野小学校(網走管内)を振り出しに、その後は函館市内の中学校に勤務してまいりました。特に初任地の網走管内では周囲に知人や友人もいない中、同期の夕陽会の仲間がいたことで、初任者研修等でも大変心強かったことを思い出します。

就任にあたって



副会長 西田浩人
(昭和62年卒 八雲町立八雲小学校長)

この度、渡島小中学校長会を代表しまして夕陽会副会長を仰せつかりました。夕陽会の充実・発展に向け、精一杯務めさせていただきます。

私は、昭和六十二年の卒業後、小学校教諭として石狩管内恵庭市に赴任しました。全校児童八百名を超える大規模校でしたが、夕陽会員は私のほかは僅か一名でした。しかし、その一名の先生と偶然にも同じ学年を組むことになりましたので、面倒を見ていただくことも、仕事を基礎から学ぶことができた。また、他校の夕陽会恵庭支会の先生方から声をかけられることがあり、卒業した大学が共通していること

す。また、その後は、函館市内のどの勤務先においても、夕陽の諸先輩方から温かいご指導やご支援を賜り教師としても人としても成長させていただきました。あらためて、今の自分があるのも、年代を超えた同窓の皆様の支えや温かさによるものから感謝しております。

この度の就任を機に、これまでお世話になった皆様への恩返しと、持続可能な令和の夕陽会の発展に、微力ではありますが、寄与できるよう職務に当たらせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

重みを感じました。

その後、渡島支部に異動し、夕陽会組織の大きさを肌で感じることにになりましたが、恵庭支会に対する感謝の気持ちは今でも忘れておりません。組織が小さく会員が少なかったからこそ、繋がりや心強さを感じたのです。これも夕陽会が全道・全国にしっかりとネットワークを広げていたお陰だと思っております。

不易と流行。時代は変わっても後世に残さなければならぬものがあります。持続可能で時代に合った組織を目指し、微力ながら職務にあたらせていただきます。



就任にあたって

副会長 佐藤 等
(昭和63年卒 今金町立今金小学校長)

この度、檜山校長会を代表しまして、夕陽会副会長という大役を仰せつかりました。その任の重さに身の引き締まる思いでおります。風間会長をはじめ、役員の皆様のご指導を仰ぎながら、微力ではありますが、任を精一杯務めさせていただきます。

私は、母校を卒業後、瀬棚町(現せたな町)、今金町、厚沢部町の小学校で勤務してまいりました。それまでは、あまり縁のなかった檜山での勤務でしたが、どの地においても夕陽会の諸先輩がおられ、ご指導とご助言、そして年代を超えた同窓の温かいつながりを実感させていただきました。それは、後志で勤務した

感謝の気持ちを持つて



総務 土橋 史人
(昭和58年卒)

今年度、夕陽会の総務を仰せつかりました。役職の重さをしっかりと受け止めて責任を果たして参りたいと思います。

私は、昭和五十八年三月に卒業し、室蘭市での勤務後に八雲中学校勤務となりました。八雲中で同僚の多くが同窓生という環境で日々意見をぶつけ合い、助け合い、苦勞しながらも楽しく教育実践にあたりました。そして、飲みながら遅くまで語り合うこともしょっちゅうでした。

また、八雲町では同窓の大先輩である元八雲町教育長の岩村吉男氏から子供の教育・保護者対応など多くのことを学び、とても有意義な時間でした。さらに、八雲支会では、飲

迎会や送別会などが盛大に開催され、他校の先生方とも交流を広げ、視野を広げることの大切さも深く感じたものでした。

また、私は平成二十八年度と二十九年度の二年間、夕陽会渡島支部の幹事長を務めさせていただきました。春の「総会」及び「新会員歓迎会」そして年度末の「勇退者激励感謝の会」の際には当時の夕陽会長であった橋田恭一氏、藤川 隆氏が忙しい中にも関わらず必ず出席してください、会を大いに盛り上げてくださいました。当時のご恩に報いるためにも今年度からは、夕陽会の発展のために力を尽くしたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



就任にあたって

監査竹嶋 充
(昭和56年卒)

この度、ご縁がありましてご勇退されました前夕陽会監査門脇正和様の後任として大役を承りました。会長をはじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、微力ではございますがその任を務めさせていただきます。私は昭和五十六年三月に母校を卒業し、網走管内(現オホーツク管内)で七年間、渡島管内および函館市内では小学校、中学校、養護学校(現特別支援学校)、道立施設、社会教育行政の計十二の現場で三十一年間勤務いたしました。さらに退職後も初任者研修指導や指導力向上担当教諭として以前勤務していた小学校で五年間の再任用の機会をいただきました。

した。これまでの間、多くの場面で夕陽の諸先輩や同僚のご支援をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

また、夕陽会の業務では、平成二十九年度から二年間渡島校長会を代表して副会長の任を仰せつかり、会の節目となる百周年記念祝賀会において、八百余人の参加者の前で開会宣言をさせていただいたことが今でも大きな記憶として残っています。この度の就任を機に、新しい時代での夕陽会の発展に少しでも貢献できるように努めて参る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



就任にあたって

函館市支部長 須田 秀樹
(昭和63年卒 函館市立万年橋小学校校長)

この度はご縁があり、夕陽会代表支部長という大役を仰せつかり、その任の重さに身の引き締まる思いであります。風間会長をはじめ、役員の皆様のご指導を仰ぎながら、精一杯務めさせていただきます。

私は、昭和六十三年に母校を卒業し、日高管内浦河町立荻伏小学校を振り出しに、函館市内の小学校で勤務しました。その後、管理職として十勝管内池田町立高島小学校へ赴任した後、再び函館市内の小学校を中に勤務してまいりました。どの地においても夕陽会の諸先輩方からの温かいご指導やご支援を賜り、心より感謝しております。

特に、単身で赴任した十勝の地で夕陽会の諸先輩の皆様にかけていただいた温かいお言葉には、同窓の繋がりの深さとお難さを実感させていただきました。懐かしい地名や懐かしい言葉に触れることができた懇親の席で、本部役員の方が話されていた「夕陽って空気のような存在ですね。近くにいるときは意識しないけれど、離れてみるとその大切さを感じますね。」というお言葉は、今も強く私の心に残っております。



就任にあたって

代表支部長(渡島) 間瀬 龍生
(昭和62年卒 八雲町立落部中学校長)

この度、夕陽会本部の地元である渡島支部を代表して、夕陽会代表支部長という大役を仰せつかり、その任の重さに身の引き締まる思いであります。風間会長をはじめ、役員の皆様のご指導を仰ぎながら、微力ではございますが夕陽会の充実・発展のため務めてまいりたいと考えております。

私は、昭和六十二年に母校を卒業し、木古内町を初任に、七飯町・森町・八雲町・松前町の中学校で勤務してまいりました。どの地においても夕陽会の諸先輩からのご指導を賜り、同窓の温かさを実感させていただき、また、シンガポール日



就任にあたって

文化部長 柿崎 雄二
(昭和63年卒 函館市立高丘小学校教頭)

このたびの夕陽会本部総会におきまして、仲井靖典文化部長の後任として、その大役を仰せつかりました。風間会長をはじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、伝統ある夕陽会の充実・発展に精一杯務めてまいりたいと考えている所存でございます。

私は、昭和六十三年三月に母校を卒業し、渡島管内の南茅部町(現函館市)立尾札部中学校に教員として採用されました。その後は、木古内町・函館市・日高管内の平取町・函館市の小学校で勤務してまいりました。どの地においても夕陽会の諸先

本人学校に赴任した際には奇しくも夕陽の仲間がおり、いかに自分が夕陽の縁に支えられているのかを実感いたしました。微力ではありますが、これまでお世話になった方々へ少しでも恩返しができるよう努めてまいります。

現在、母校卒業生のうち教員になる学生が減少している現状の中で、教員以外の多様化する同窓生に支持される夕陽会の構築が必要であると考えます。持続可能な活力ある夕陽会を目指し、会の発展に微力ながら寄与できるよう職務にあたらせていただきます。どうぞよろしく願いたします。

また、これまでご指導いただいた諸先輩方、お世話になった方々への恩返しのために、この素晴らしい縁を後世の若者につなげられるように、努めてまいります。どうぞよろしく願いたします。

会務報告



幹事長

新田 英樹
(平成4年卒)

《一般会務》

6/29 全国支部長会議・本部総会・大懇親会
(函館国際ホテル)

7/19 夕陽フォーラムへ新田幹事長・宮下副幹事長・黒田副幹事長が講師として出席する
(母校)

7/28 明日の教師養成塾へ附属学校職員が面接指導講師として出席する
(母校)

8/7 帯広十勝支部巴湾会OB・OG会七夕の集いが開催される
(母校)

8/24 小樽支部夏季研修会が開催される (小樽市立花園小)
(各実習校)

9/2 第3回母校110周年記念式典及び祝賀会実行委員会へ風間会長が出席する
(母校)

9/11 第4回母校110周年記念式典及び祝賀会実行委員会へ風間会長と新田幹事長が出席する
(母校)

9/14 北海道教育大学同窓会会

長・理事長 (専務理事・幹事長) 会議に風間会長と新田幹事長が出席する

(北海道グリーンランド ホテルサンブラザ)

9/28 母校110周年記念式典及び祝賀会が開催される

(ホテル函館ロイヤル) 岩手支部盛岡集会へ風間会長が出席する

10/5 (サンセール盛岡) 指導主事等会学習会へ風間会長と黒田副幹事長が出席する
(札幌)

10/19 道央ブロック会議へ風間会長が出席する
(ニュー三幸)

10/26 会報237号発行
(令和6年10月末日現在)

10/31

年賀状じまいのお知らせ

この度、夕陽会では、昨今の社会情勢に鑑み、来年より年賀状によるご挨拶を控えさせていただきますことといたしました。何卒事情ご賢察のうえご理解を賜りますようお願い申し上げます。なお、今後はホームページにて年始のご挨拶に代えさせていただきます。

受賞(章)おめでとうございます

※藍綬褒章 (春の褒章5/4/29)
渡辺 穂香 氏 昭45年卒

函館市赤川一の一の二四

※瑞宝小綬章 (高齢者叙勲4/1)
山田 昭彦 氏 昭33年I卒

函館市

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲5/5/1)
寺沢 久光 氏 昭33年I卒

七飯町本町五の二の三八

※瑞宝中綬章 (春の叙勲5/1)
伊藤 勝志 氏 昭44年卒

函館市美原一の一五の一五

※文部科学大臣教育者表彰
(5/11/30)

野崎 均 氏 昭61年卒
前 登別市立緑陽中学校

※瑞宝双光章 (春の叙勲5/1)
窪田 忠義 氏 昭35年II卒

日高町富川西二の九の一

※北海道教育功績者表彰 (1/12)
谷口 光伸 氏 昭62年卒

前 江差町立江差小学校

※瑞宝双光章 (春の叙勲5/1)
絹野 重治 氏 昭40年I卒

函館市桔梗四の五の六

※文部科学大臣優秀教職員表彰 (1/16)
磯波 理恵(水鈴) 氏

平14年卒

※瑞宝双光章 (春の叙勲5/1)
手代木 莊司 氏 昭40年I卒

稚内市中央二の一の二六

市立函館高校

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲6/1)
旦尾 宏 氏 昭35年I卒

※文部科学大臣優秀教職員表彰 (1/16)
加藤 孝章 氏 平15年卒

江別市立大森東中学校

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲9/1)
加藤 弘 氏 昭32年II卒

函館市湯川町二の三五の七

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲2/1)
信田 利之 氏 昭33年I卒

函館市北美原二の一三の二一

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲9/1)
伊藤 行男 氏 昭35年I卒

北斗市市渡五五の一

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲3/1)
川久保順平 氏 昭34年I卒

函館市美原四の三〇の三五



釧路支部だより

釧路支部長 田崎 博久

(平成10年卒 釧路市立共栄小学校教頭)

北海道の東側に位置する釧路管内。釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、白糠町、鶴居村の八市町村を有し、東北海道の中核、拠点地域でもあります。春は花粉0、夏は天然の避暑地、秋から冬は晴天の日が多く積雪も北海道の中では少ないなど、とても過ごしやすい環境です。豊かな自然にも恵まれ、釧路湿原国立公園と阿寒摩周国立公園、厚岸霧多布昆布森国立公園の三つの国立・国定公園があり、特別天然記念物のタンチョウやマリモも生息しています。南部には、暖流と寒流が交わる豊富な漁場が、北部には広大な酪農地帯が広がり、豊かな自然に育まれた良質な食材に恵まれた地域でもあります。

こうした豊かな教育環境を有する釧路管内には現在、公立の小学校五十二校、中学校三十五校、義務教育学校三校の九十校があり、約三十名の同窓が釧路管内教育の推進に邁進しているところですが、残念ながら他支部と同様に、学校数・会員数は減少傾向にあり、特に現役会員は年々減少の一途を辿っています。会の運営も年々厳しくなっています。会が現状です。このような状況ではあります。諸先輩方が発展・継続されてきた釧路の「夕陽の灯」を絶やさぬようにとの思いから、釧路支部では「会員相互の親睦を深めること」「公私を問わず同窓同好・連帯意識を強めること」を運営の柱として、「今できることを確実に」をモットーに推進しています。

具体的には、釧路のソウルフード「スパカツ」で有名な泉屋を会場に、五月に支部総会・懇親会、一月に新年交礼会を開催し、近況報告や函館の思い出話に花を咲かせています。夕陽との結び付きが途切れぬよう、年一回の広報紙の発行も継続しています。新規会員会費0円を謳った会員募集のチラシを各校に配付するとともに、若手・中堅の会員とはLINEでつながるなど、新規会員の発掘、会員相互の日常的なつながりにも力を入れていきます。このような取組の成果もあり、今年度は四名の新会員（新採用・他管内からの異動・新たな会員の掘り起こし等）を迎えてスタートできたことは、大変喜ばしい出来事でした。ここ数年、実施できていない「若い人の集い」も再開できればと模索中です。

わが根室支部は北海道最東端に位置し、上を知床半島、下は根室半島にぐるりと囲まれた一市四町で構成される小規模の管内です。本部のある函館から移動距離にして最も遠く離れた根室支部ですが、その最大の魅力は雄大な自然環境にあります。世界自然遺産に登録された「知床」をはじめ、ラムサール条約に登録された「風蓮湖及び春国岱」並びに「野付半島及び野付湾」があり、タンチョウやシマフクロウ、オジロワシなど天然記念物の生息数も国内トップレベルです。大胆でスケールの大きな美しい景色に囲まれていると、日々笑顔で心穏やかな生活を送ることができそうなものですが、教育の今日的課題を鑑みると、全国全道と同じような傾向を示すことは相違ありません。

前納会費納入会員名簿追加分

永澤 篤 函館 昭63
内藤 一志 函館 昭56
工藤 幸子 函館 昭57
佐々木 雅哉 札幌 昭63

土橋 史人 渡島 昭58
大山 真由美 渡島 昭62
今川 幸江 青森 昭57
誉田 洋三 函館 昭49

(敬称略 令和6年10月末日現在)

夕陽会員計報

西巻 健三氏 昭33Ⅱ 5・6・ 逝去
札幌市手稲区発寒6条9の11
木下 志明氏 昭60 5・7・6 逝去
愛知県瀬戸市美濃池町14の2 妻 智子氏
小川 史浩氏 平元 5・7・16 逝去
七飯町鳴川4の3の44
柿崎 成基氏 昭33Ⅱ 5・8・7 逝去
苫小牧市光洋町3の19の4 妻 京子氏
九嶋 敏雄氏 昭41Ⅰ 5・8・ 逝去
函館市時任町31の3
伊藤 憲司氏 昭37Ⅰ 5・9・22 逝去
苫小牧市春日町3の1の10
菊池 健氏 昭43 5・10・23 逝去
函館市東山2の5の12
横浜 卓見氏 昭33Ⅱ 5・11・29 逝去
江差町新地町98
長田 知之氏 昭43 5・12・19 逝去
札幌市東区北49条10の5の1 妻 桂子氏
澤井美智子氏 昭36Ⅰ 5・12・23 逝去
函館市美原5の33の11
宇野 浩二氏 昭41Ⅰ 5・12・27 逝去
江別市大麻新町13の18
三浦 進氏 昭28Ⅰ 5・12・ 逝去
札幌市北区屯田4条6の4の10
能代 靖之氏 昭31Ⅱ 5・ 逝去
函館市西桔梗町745の8
高橋 進氏 昭22 6・1・25 逝去
苫小牧市青葉町2の9の27
大屋 聡氏 平元 6・2・23 逝去
函館市桔梗5の23の31 妻 治美氏

野村 満夫氏 昭35Ⅰ 6・3・7 逝去
七飯町本町4の4の30 妻 悦子氏
出崎 敏郎氏 昭32Ⅰ 6・3・8 逝去
函館市昭和1の26の32 妻 ナツ子氏
辻 一子氏 昭37Ⅱ 6・3・11 逝去
函館市柏木町3の10 めい 田中美希子氏
高岡 孝三氏 昭30Ⅱ 6・3・13 逝去
函館市湯川町1の23の7
安藤 信男氏 昭46 6・3・22 逝去
函館市人見町25の29 妻 佐智子氏
細谷瑠璃子氏 昭32Ⅱ 6・3・23 逝去
函館市西桔梗町716の15 長女 青木瑞佳氏
森 昇一郎氏 昭42 6・3・27 逝去
函館市山の手2の48の12 妻 順子氏
笠松 英治氏 昭63 6・3・28 逝去
七飯町大中山2の3の17 妻 玲子氏
桑名 巖氏 昭20 6・3・29 逝去
函館市東川町5の8 妻 文子氏
山内 洋三氏 昭35Ⅱ 6・3・29 逝去
函館市松陰町25の36 妻 道子氏
小松 悟氏 昭46 6・3・30 逝去
七飯町上藤城216の30 妻 和子氏
多田 弘氏 昭29Ⅰ 6・4・5 逝去
函館市亀田本町27の24 長男 弘之氏
中村 薫氏 昭30Ⅱ 6・4・10 逝去
函館市西桔梗町731の49 次男 龍司氏
沼口 源一氏 昭26Ⅲ 6・4・15 逝去
函館市馬場町2の10
大沼 廣平氏 昭33Ⅱ 6・4・24 逝去
函館市上野町27の23

佐々木英樹氏 昭34Ⅱ 6・5・9 逝去
函館市山の手3の55の1 妻 昌子氏
小林 基英氏 昭49 6・5・11 逝去
函館市北美原1の14の6 妻 泉氏
木下寿実夫氏 昭32Ⅱ 6・5・15 逝去
北斗市本町68 妻 スエ氏
野口 和夫氏 昭23 6・6・8 逝去
七飯町大川3の8の2 長男 卓史氏
奥寺 洋氏 昭30Ⅱ 6・6・14 逝去
七飯町大川2の27の2 妻 文子氏
本間 征行氏 昭36Ⅰ 6・6・15 逝去
函館市本通3の19の14 不明
佐藤 哲也氏 昭30Ⅱ 6・6・25 逝去
七飯町本町3の10の10 次男 尚人氏
金山 正智氏 昭35Ⅰ 6・7・3 逝去
函館市川原町4の24 長女 坂井直子氏
金澤源三郎氏 その他講習修了
6・7・20 逝去
北斗市押上2の3の14 長男 忍氏
岩村 泰夫氏 昭31Ⅱ 6・7・25 逝去
森町尾白内町931 長男 浩氏
岩尾 雅彦氏 昭36Ⅰ 6・7・31 逝去
函館市桔梗4の22の14 妻 佳代子氏
五百川 忠氏 昭32Ⅱ 6・8・3 逝去
函館市花園町5の10
田中 洋氏 昭42 6・8・8 逝去
函館市桔梗町59の197 妻 晶子氏
飯坂 朋範氏 昭30Ⅰ 6・8・14 逝去
札幌市豊平区月寒西1条5の1の1 妻 國榮氏
守山 和男氏 昭34Ⅰ 6・8・22 逝去
札幌市豊平区豊平4条12の3の13の415 妻 泰子氏
中島康夫(青雲)氏 昭34Ⅰ 6・8・23 逝去
函館市本町20の13 妻 晴子氏
山本(北風)典子氏 昭40Ⅰ 6・8・29 逝去
函館市花園町10の12 夫 勲氏
三田村 清氏 昭43 6・9・4 逝去
七飯町本町2の15の8 妻 真理子氏
鹿内 晃司氏 昭38Ⅰ 6・10・10 逝去
函館市美原2の11の12 妻 みづほ氏

編集後記

◆本号も新田幹事長はじめ事務局の皆様への応援のもと、会報発行に向けて準備を進めて参りました。また、ご多用の折、ご協力いただきました皆様、誠に深く感謝申し上げます。

◆民間調査機関による地域ブランド調査二〇二四では、市区町村の魅力ランキングで五年ぶりに函館市が一位になりました。

◆今年度の函館市へのクルーズ船入港回数は五十九回を予定し、街には様々な国や地域より多くの観光客が来函しており、函館市の観光都市としての一層の発展を期待します。

◆お陰様で夕陽会も令和六年六月二十九日(土)には全国支部長会議、並びに人数制限のない本部総会・大懇親会を開催することができました。

◆母校は本年をもつて一〇周年を迎えました。開校以来、多くの同窓が各界へ進出し活躍していますことを夕陽会を通してあらためて実感しています。

◆これからも母校の発展と学生や同窓の皆様のご活躍ご多幸を祈念しながら、夕陽会報第二三七号をお届けいたします。

(情宣部長 近江 辰仁 記 昭63卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局
電話番号(0138)46-2235
夕陽会専用070-8521-9110
FAX番号(0138)47-7376
e-mail:sekiyoukai34520@gmail.com

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭氏 昭4卒)